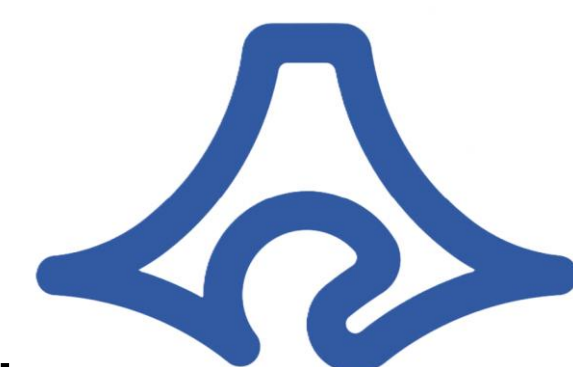


南アルプス荒川岳丸山・千枚岳における気候変動モニタリング

川井理仁・神谷貴文・村中康秀・綿野哲寛（静岡県環境衛生科学研究所）



連絡先: kanka@pref.shizuoka.lg.jp

背景と目的

・本県の高標高地帯には、南アルプスのライチョウやオオシラビソなどの動植物の分布の南限となる固有の種が存在



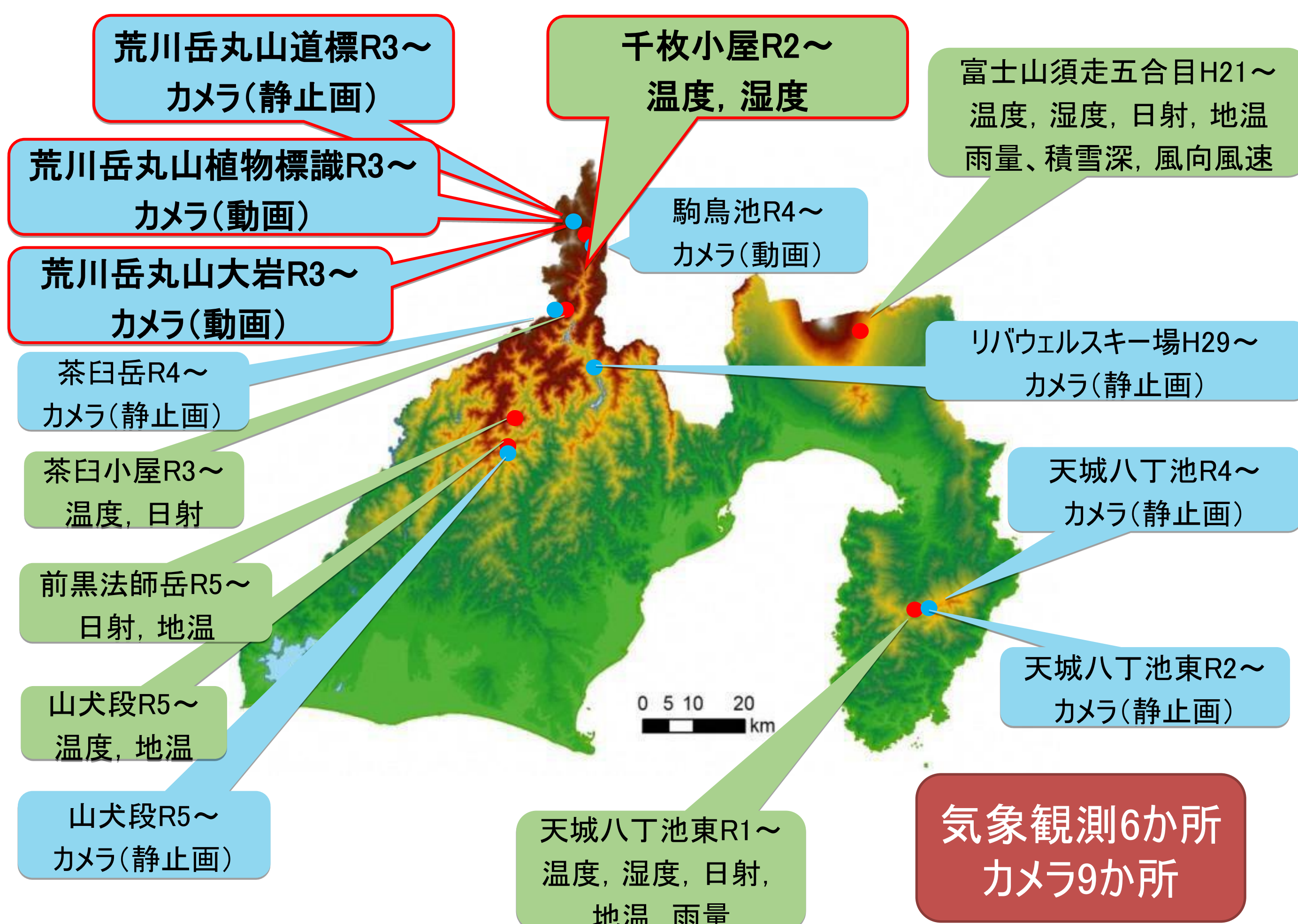
・気候変動による気温上昇や積雪域の減少に伴う分布適域の縮小、個体群の絶滅などが危惧される
 ・高山帯地域は気象観測の空白域であり、影響を評価するデータが少ない

モニタリング体制の構築が課題

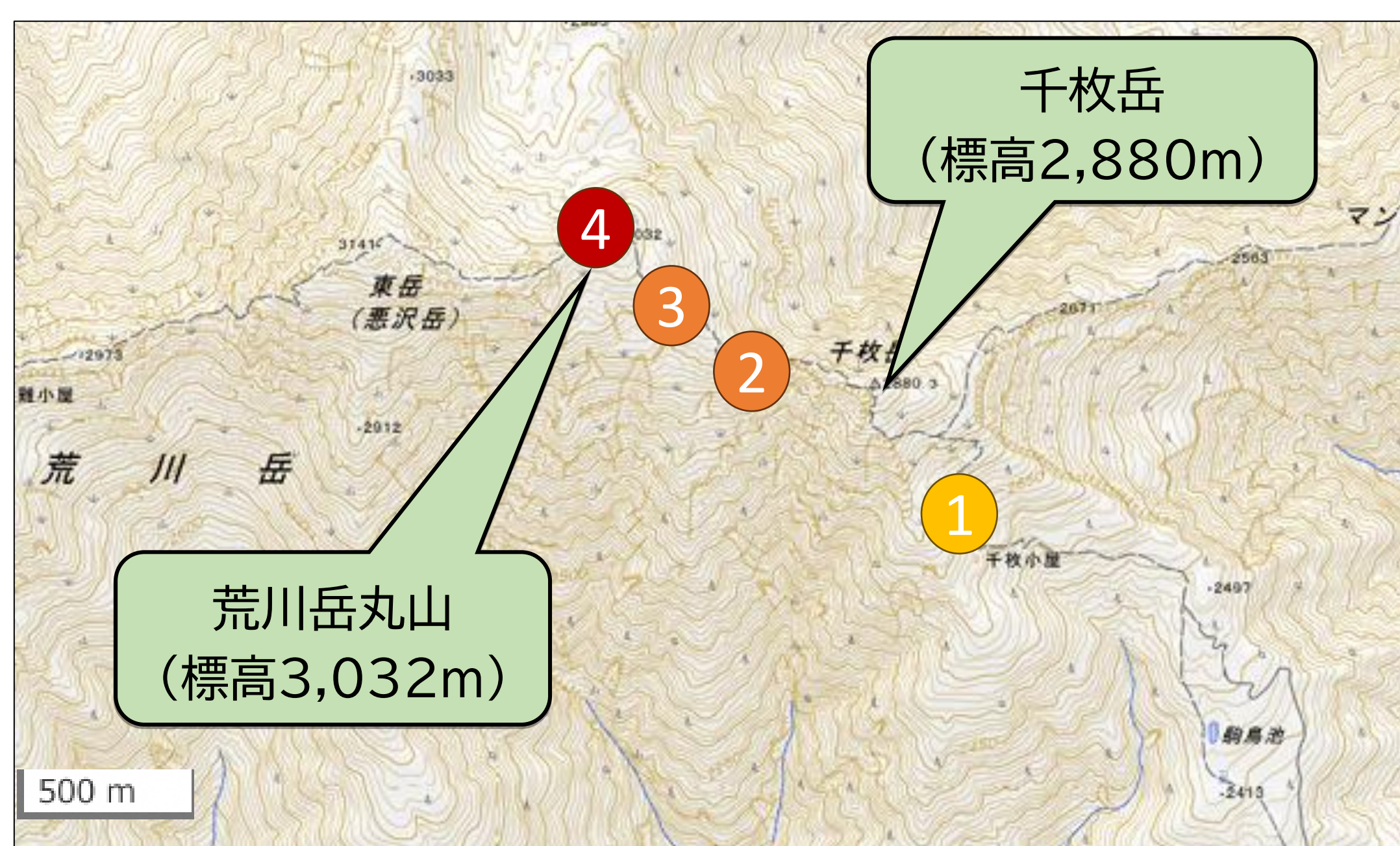
・県内の高標高地帯へモニタリング機器を設置し、観測データを収集。今回、荒川岳丸山・千枚岳の調査結果を報告する

本取組の一部は、国立環境研究所共同研究(適応型)「気候変動影響検出を目的としたモニタリング体制の構築」として実施

モニタリング地点



モニタリング機器の設置



国土地理院Webサイトを加工(2025年10月23日)
<https://maps.gsi.go.jp/#15/35.495652/138.184962/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0>

気象観測機器

- 千枚小屋(標高2,416m)
 令和2年10月～
 使用機材:KADEC21
 計測項目:温度、湿度

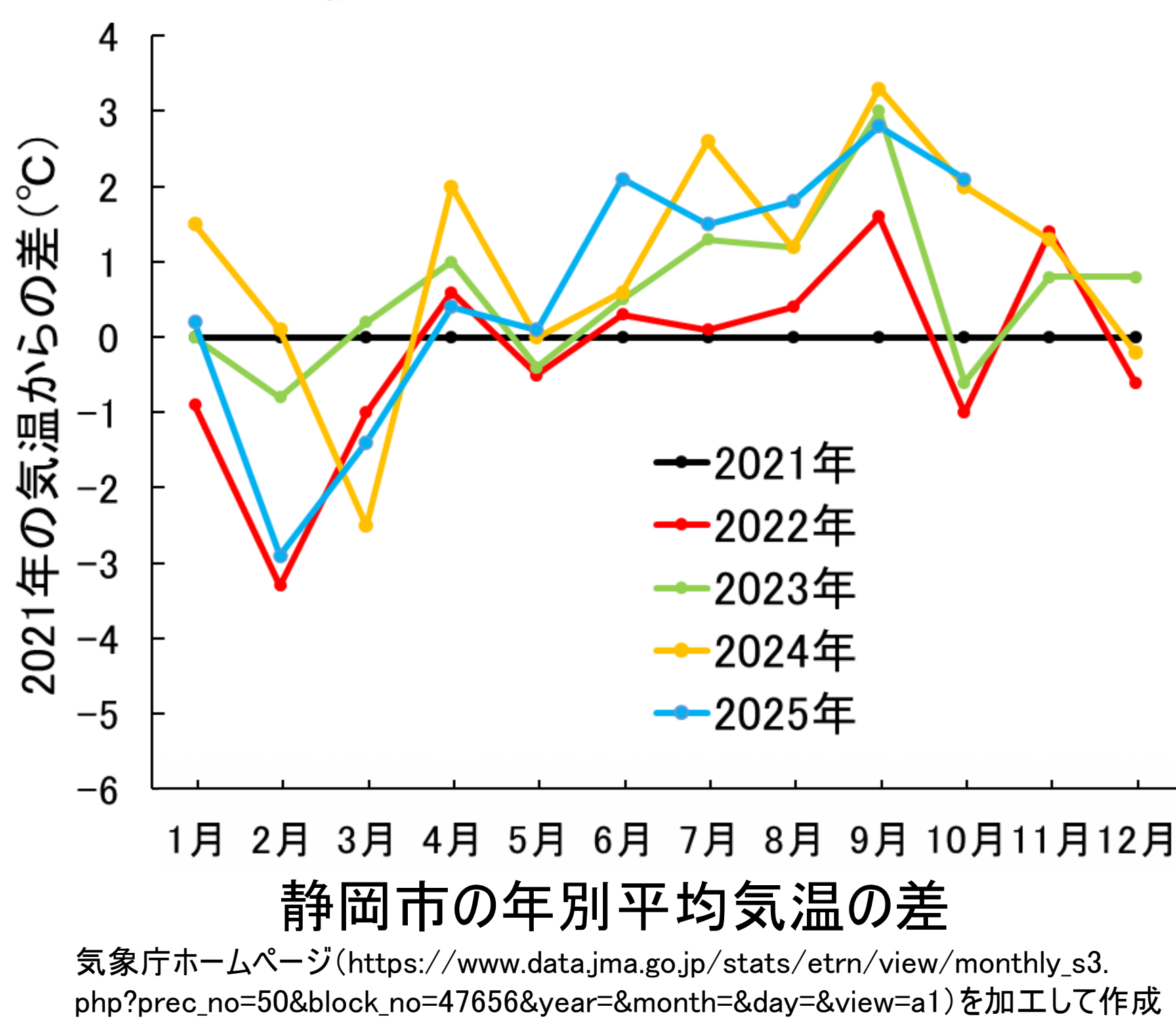
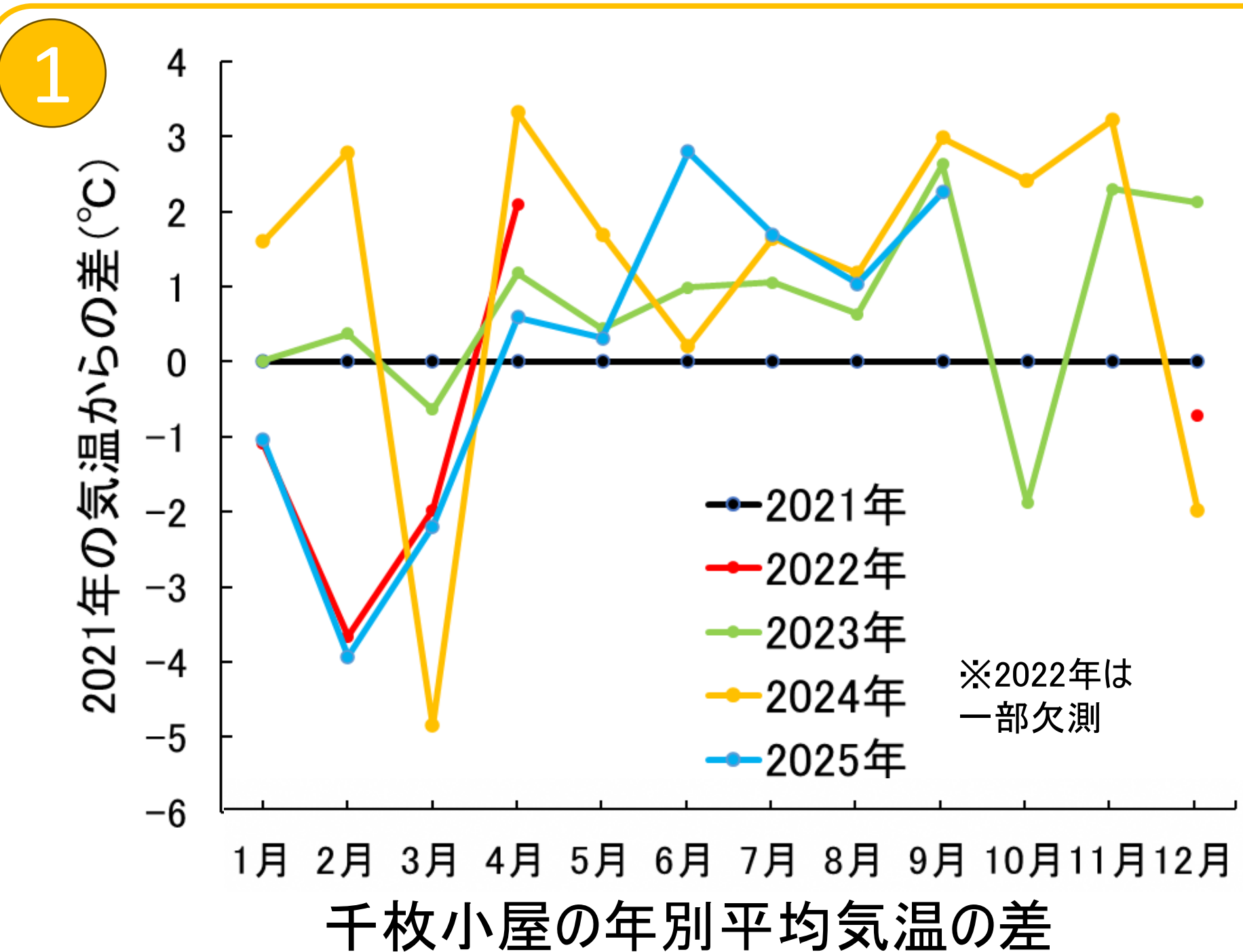


トレイルカメラ

- ・センサー撮影動画
- 丸山植物標識(標高2,940m)
 設置:令和3年6月～
 使用機材:ハイクカムLT4G
 - 丸山大岩(標高2,924m)
 設置:令和4年7月～
 使用機材:ハイクカムSP2
- ・定点静止画
- 丸山道標(標高3,032m)
 設置:令和3年6月～
 使用機材:ハイクカムLT4G



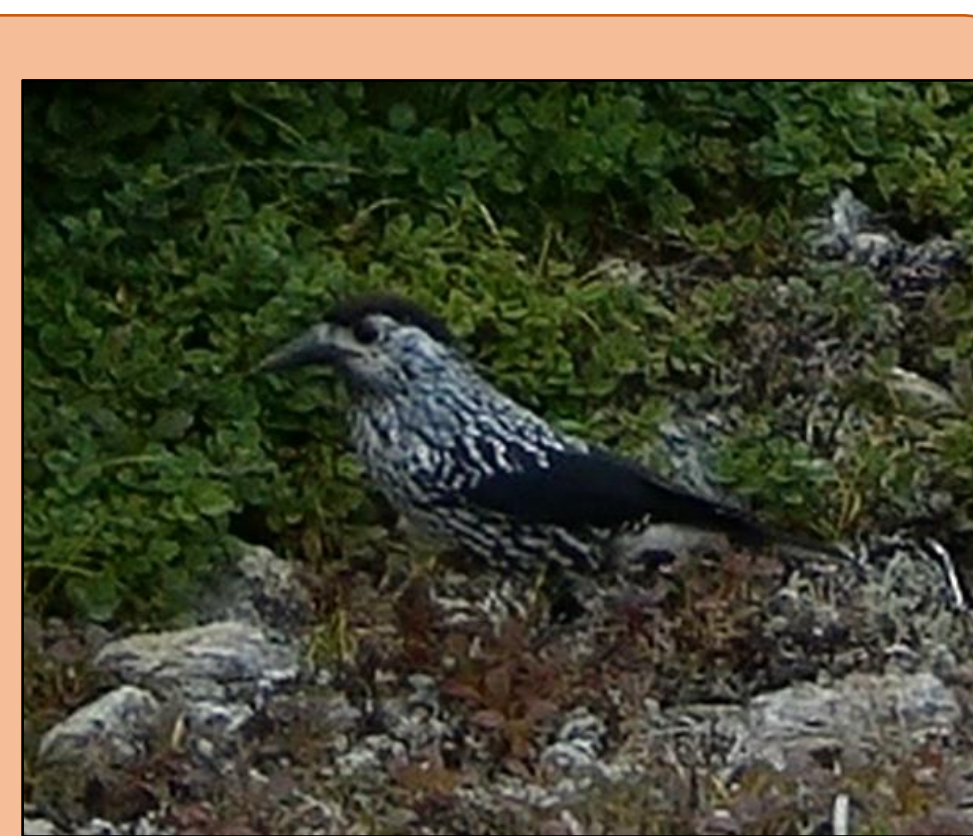
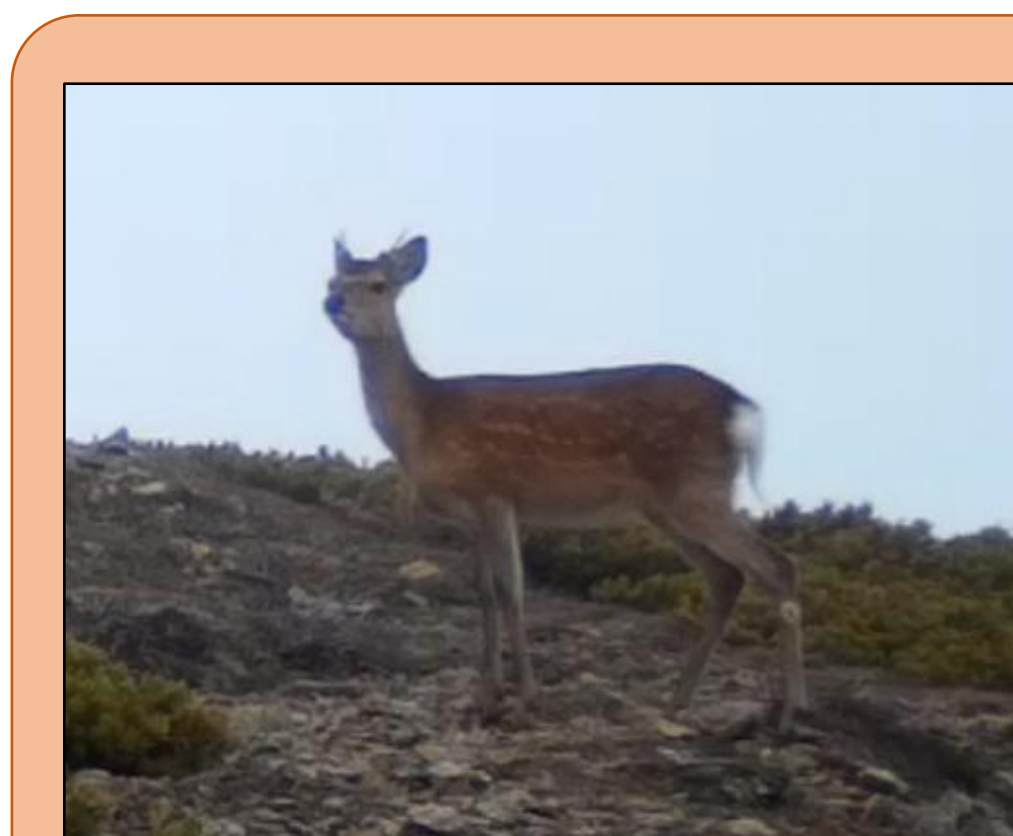
結果



- 荒川岳丸山での初積雪日

2021年	10月21日
2022年	10月25日
2023年	10月15日
2024年	11月22～25日
2025年	10月22日

・近年の夏場の高温は高山帯でも同様の傾向
 ・一方で、初積雪日については、年によってばらつきがある



- 荒川岳丸山植物標識で7～9月に撮影された生物

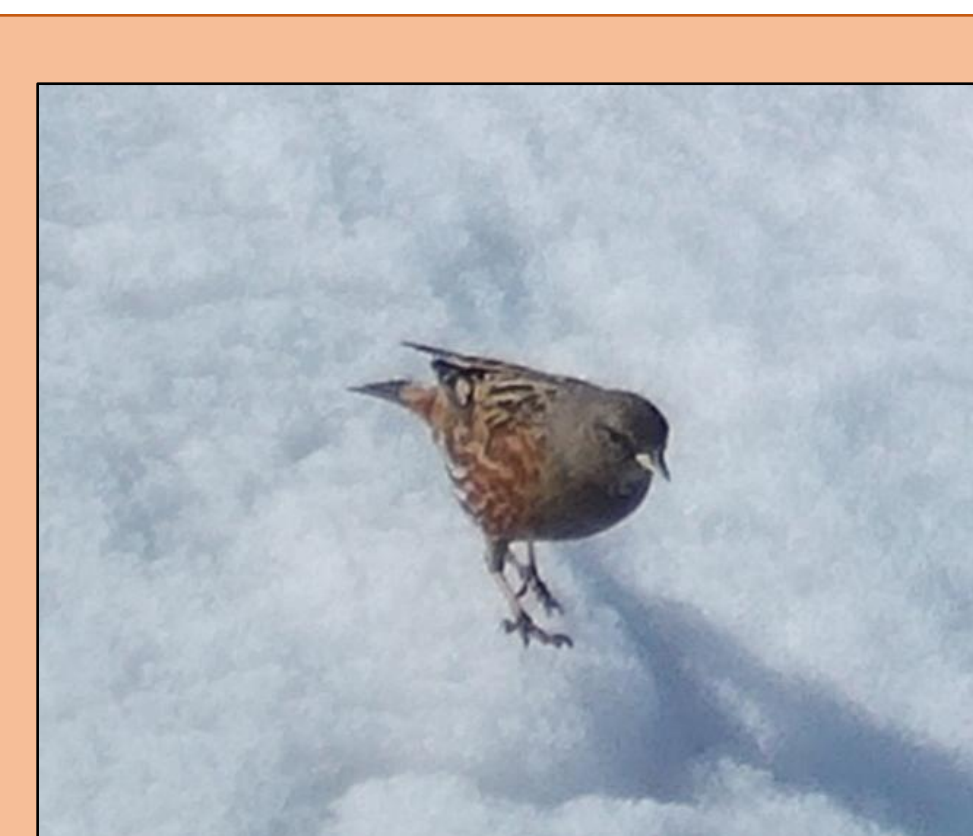
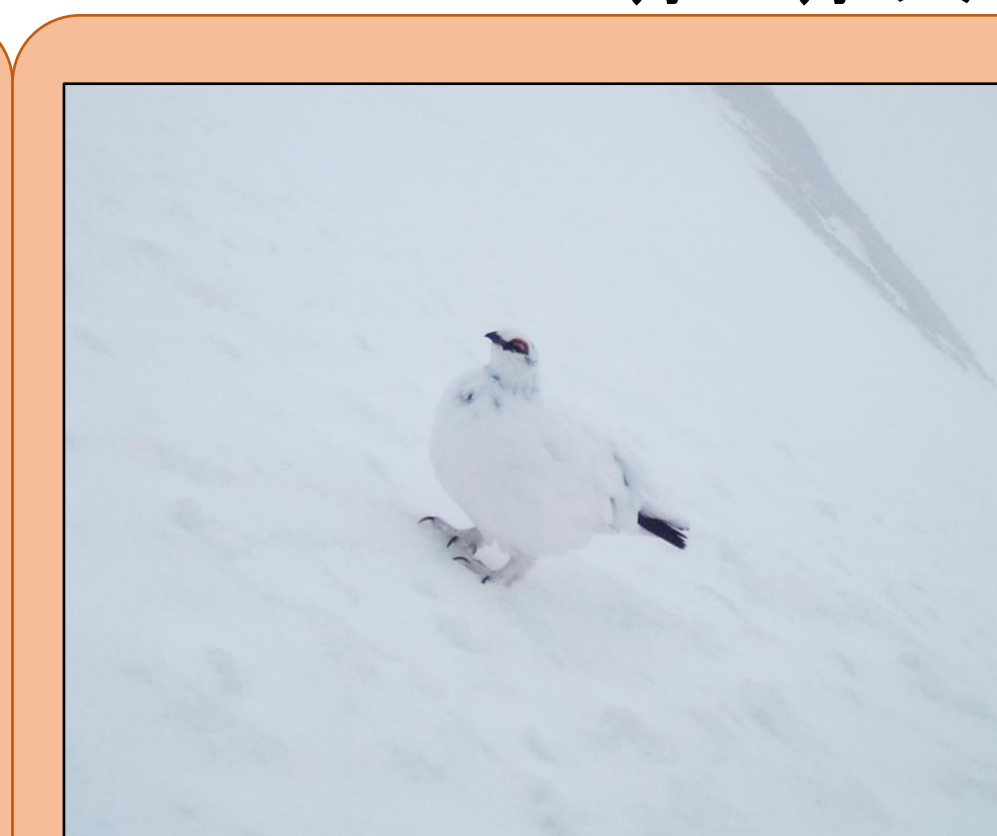
	ライチョウ	ニホンジカ	ニホンザル	カモシカ	他鳥類	その他
2021	5	4	3	1	10	2
2022	4	1	4	0	1	1
2025	0	27	3	0	6	11

※2023、2024年は機器不調等により欠測

- 荒川岳丸山大岩で撮影された生物

	ライチョウ	ホシガラス	イワヒバリ	他鳥類	その他
2022 * 1	1	2	0	1	8
2023 * 2	2	1	1	7	1
2024	11	1	0	10	5
2025 * 3	1	0	1	4	2

* 1 7月～12月のみ
 * 2 機器不調等により7月14日から10月16日欠測
 * 3 1月～9月のみ



・②丸山植物標識ではライチョウを含む広い種類の生物、③大岩では主に鳥類が確認された
 ・夏期において、2025年はシカの割合が大幅に増加しており、高山植物の食害やライチョウ生息域への影響が懸念される

今後

短期間の観測では気候変動の影響を判断するには不十分であることから、今後も気象観測の空白域である高標高地帯の観測を行い、気候変動の影響を評価する基礎的データの収集や、生物の生息状況について継続した調査を実施することで、影響の変化を的確にとらえ、保全対策に結びつけていきたい。